

令和6年度 第2回 南箕輪村地域公共交通会議
議 事 録

日 時：令和6年11月20日(水) 9:00～10:30

会 場：南箕輪村役場 2階 講堂

議 題：

1. 開会

- ・事務局より開会の辞

2. あいさつ

- ・藤城会長よりあいさつ

●藤城会長
(南箕輪村長)

お忙しい中、村の地域公共交通協議会にお集まりいただき誠にありがとうございます。また、過日、各事業者の皆様にはヒアリングに応じていただきましてありがとうございました。
策定を進めてきた南箕輪村地域公共交通計画が素案ということでかたちになってきました。今日の話し合いの中で、大枠の道筋を固めてまいりたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

3. 協議事項

(1) 南箕輪村地域公共交通計画（素々案）について

- ・受託事業者（SCOP富樫）より資料1について説明
- ・質疑応答は以下の通り。

●山崎委員
(村福祉課)

交通不便者の数を示しているが、これについての将来推計はしているか。また、70ページの指標にある公共交通を地域全体で支える住民意識というところだが、住民は必ずしも担い手として公共交通を支えようという意識はないと思うが、どういう意図か教えてほしい。

●SCOP富樫
(受託事業者)

まず交通不便者数の予測だが、これは市町村の人口の将来推計のようなかっちりとした算定式などがあるものではなく、アンケート調査結果をもとに、出歩くのに支障があるとみられる層を大掴みで捉えたものである。したがって、推計値というものは出していないが、高齢者が増えてきている現状を踏まえれば、今後、この交通不便者も当然増えてくるとみられる。ただし、これから高齢者になる階層の方達は、ほぼ運転ができ、免許を手放す時期もだいぶ後になると見込まれるので、それほど急激に増えてくるものではないとみている。

●藤城会長
(南箕輪村長)

住民意識のところは、やはりこの公共交通を維持するために相当額の税金が投入されることになるので、そのあたりについての理解というところだが、もう少し補足をお願いしたい。

●SCOP富樫
(受託事業者)

山崎委員のご指摘のような担い手としての意識ではなく、会長のコメントの通り、公共交通に対する税金投入に関する意識である。昨年度実施したアンケートの中では、この件を4つの選択肢で聞いている。①公共交通が赤字なら廃止、②公共交通が赤字なら運営できる範囲に縮小、③公共交通が赤字なら利用者の運賃値上げで対応、④公共交通が赤字なら住民みんなで支える、つまり税金を投入して維持、ということだが、この④の数字が経年的に上がっていくことを期待するというものである。当然ながらなにもせずに上がってはいかないので、村の取り組みを村民の皆さんに伝わる手段をしっかりと作っていく必要がある。

●白川委員
(白川タクシー)

バスから個別輸送にシフトするという考え方だと理解しているが、バスの場合は、特別交付税がでるが、タクシーについてはそれがないはずである。独自財源でやらなければならないはずで心配である。その説明が足りてないと思うのでお願いしたい。

●清水主査
(事務局)

まず、朝夕の通学通院支援バスに関しては、特別交付税の対象となる。タクシーについては交付税の対象にはならないが、いま、地域公共交通に掛かっている約4000万円の費用からバスの運行費を差し引けば、相応の費用が残るとみている。この範囲でうまくやっていけるように制度設計したい。

●藤城会長
(南箕輪村長)

補足するが、南箕輪村は他の地域と比較して高齢化率が低く、2045年になっても今も同じぐらいの水準で推移していくという予測である。したがって、タクシー助成の利用者もそれほど急激には増えていかないとみている。
専用の乗合タクシー車両を準備しても逆に持て余してしまうことを踏まえると、このほうが効率がよいと考えている。手厚い福祉だととらえていただきたい。5年10年経った先で、やはり一度しっかり見直しをしないとイケないが、現時点においてはベストな方策と考えている。

●白川委員
(白川タクシー)

いま、隣の伊那市、そして箕輪町でもタクシー系の施策をやっているが、我々事業者としては、ほぼ手一杯でかなりお待たせしてしまっている状況にある。これがさらに南箕輪村でも始まって、需要が増えると供給能力が追いつかないことを危惧している。

●中込委員
(村区長会)

今まっくんバスで大芝の湯や伊那中央病院を利用してるわけだが、これがタクシーに置き換えられたときに現在の負担額と同程度に収まるんだったらよいのだが、交通費が倍になったとなれば年金生活者だから困った話になる。そのあたりは試算しているか。

●SCOP富樫
(受託事業者)

66pのスケジュールをみてほしい。この計画はこの3月に策定し、次年度4月から運用していくが、いきなり新しいバスやタクシーの仕組みを次の4月始めるわけではない。まず初年度1ヶ年について、制度設計をす

るかたちとしている。このなかで試算を行い、どの程度の負担額でどの程度のサービスが提供できるかなど検討していく。ここは非常に重要なところなので、慎重に検討していく予定である。

●白川委員
(白川タクシー)

タクシー券については、配ったけど使われていないとか、所定の対象者以外の人に渡ってしまっている例も多いと認識している。本来の目的とは別のところに税金が使われることは避けたいところである。

これに関して、伊那市で使っているようなアプリやタブレットなどを導入することで、そのあたりを排除することも可能だし、アプリなどを使うことで利用データが蓄積されるため、今後の展開なども検討しやすいと思うがいかがか。

●清水主査
(事務局)

白川さんにとりどころでのヒアリング時にもご指摘いただいた話である。事務局としてIT技術やDXという部分は考えていかななくてはならないので今後検討していきたい。

●藤城会長
(南箕輪村長)

利用率については高ければよいというものでもなく、何かあったときに使える安心感を常にもっておくということで、半分くらいの利用率がよいかと考えている。

●福澤委員
(伊那バス)

タクシー券については、高齢者の負担額がいまと比べて大きくなりすぎないように配慮してほしい。

次にバスについてだが、いわゆる2024年問題ということで労働時間の制約が大きくなっており、利用者ニーズを満たしながら、事業者として可能な範囲内に収まる運行にできるかが課題と考えている。

3つ目は事業費の件だが、現行プラス10%以内と掲げているが、人件費、燃料費が高騰するなかで、この範囲では収めるのが難しいと考えている。事業者としてもできる限りのことはして地域に貢献していくが、今後、具体的な部分は相談させてほしい。

●清水主査
(事務局)

やはり現状を考えると、ご自分で運転して出歩いている高齢者が多く、そうでない人たちを救うのがタクシー助成なので、ある程度手厚くできる見込みはあり、それほど負担増にはならないと考えている。

次に2024年問題やドライバー不足に関しては、先が見通せない部分もあるのだが、そのときの現状にあわせてご協力いただければと考えている。事業費設定についても、物価高騰は承知しているので引き続き検討していきたい。

●SCOP富樫
(受託事業者)

この通学通院支援バスについては、伊那バスさんに事前にご相談させていただいたところである。当然、公共事業なので、伊那バスさん1社随意契約をお願いするかどうかという部分も別途検討は必要なのだが、一応は内諾をもらったうえで、この計画に記載しているものである。しかし、そうはいつでも、このように朝夕だけ走らせてね、というのは我々側の都合の良い話である。バス会社さんにとっては1日走らせてこそその事業なので、良くないことは重々承知しているが、なにとぞご理解、ご協力をよろしくお願いしたい。

●藤城会長
(南箕輪村長)

事業費についての10%アップのところだが、これは私も非常に厳しいと捉えているので必要に応じて調整したい。

また個人個人の負担額については、個人で自動車を持つときには、相応の費用を払っているのに、村が運営する公共交通なら運賃が格安ということにはやや違和感がある。利用者への一定の負担も必要なものと考えている。

●西津委員
(JRバス関東)

計画そのものは村の現状を鑑みて、理に適ったものとなっていると思う。目標値の設定のところでひとつ質問だが、タクシー助成の利用率が50%となっているが、これは以上なのか以下なのか。利用率を高めたいという側面と事業費を抑えたいという側面と両方あるはずなので。あとは、事務局でもよくわかっていることとは思いますが、運行距離や時間が30%減ったから委託費が30%減るというわけではないので、その点をご配慮いただきたい。

●白川委員
(白川タクシー)

利用者負担についてだが、いまのまっくんバスでは75歳以上無料としていて、この仕組みはまっくんバスの休止に伴いなくなると思うが、やはり公共交通に、お金を払って乗る人と払わなくて良い人がいることに違和感がある。下げすぎているきらいがある。

●SCOP富樫
(受託事業者)

おっしゃる通りで、いまの地方部の行政主導の公共交通施策は福祉的な側面もあり、運賃を過度に低く設定しすぎている傾向がある。自家用車を2台もつ一般的な世帯において、月平均8万円くらい掛かっているという試算もあり、人の移動にはお金が掛かるものである。

本来、公共交通の運賃は、運行に掛かる費用の積み上げ計算があって、それを利用者数で割ったときに1人いくらもらいましょう、というのが原則である。地方部では当然、利用者からの運賃で採算をとることは困難だが、だからといって、100円ワンコインというのはよくない。もう少し利用者からしっかりお金をいただくという仕組みが必要である。

●高梨委員
(伊那警察署)

使わない人も負担することについては、交通不便者という困っている層がこういうふうにして、それをサポートするために必要なのだということ根拠立てて示していくことが必要である。

●中込委員
(村区長会)

具体化するのが一番大変だと思うのは、やはり高校生の通学と思われる。村の特性として、資料にもあった通り集落が点在しているなかで、どのようなルート、時間を組むか。結局親が送ったほうが早いとなれば利用してもらえない。しっかり制度設計してほしい。

●藤城会長
(南箕輪村長)

ありがとうございました。地域公共交通計画の関連はこれで以上とします。

(2) その他

- ・とくになし

4. その他

■今後のスケジュールについて

- ・ 意見書を11月29日まで提出いただき、そのご意見を踏まえて修正
- ・ 来年1月に第3回の協議会で素案として提示して協議
- ・ その後パブリックコメントを実施
- ・ 3月の第4回協議会で承認

というかたちを見込んでいる。タイトなスケジュールとなるが、ご協力賜りたい。

4. 閉会

- ・ 事務局より閉会の辞